

参考文献
魔界の設定については以下の作品を参考に作成している。

- a) 「デビル・メイ・クライ」シリーズ (CAPCOM)
b) 仮面ライダー電王 (テレビ朝日・東映)
c) あつち女神さま (藤島康介)
d) 3×3 EYES (高田裕三)

魔界[Chaos Sphere]
・魔界とは、具象界に隣接する異世界の中でも、最も規模が大きいものである。
・魔界には、"デーモン"と呼ばれる魔神種族とそれに従う従属種族がいる。

魔界の成立
・魔界がどのように作られたのか、記録は全く無い。
・唯一、語り部の中で次のような詩を記憶しているものがある。

最初に混濁する魔素あり。
やがて3つの渦現れり。
渦は魔素を引き裂いて天地を分けた。
渦より現われたる無数の魂魄は、
天地に散って血肉を得た。
・上記の詩における"魔素"とは、具象界における混沌ノカオスに相当する。
・3つの渦とは、今の魔界の種族の根源といわれている霊素、元素、念素のこと。
これは具象界の神話では、神格化されて創造神といわれるものに相当する。
この渦が混沌を切り裂いて天と地を作り出し、住人となる魔神の魂をばら撒いたというの、魔界の成立であったといわれている。

魔界の文化様式
・魔神達は生まれてすぐに高度な知能と特殊能力を獲得するため、個々の自意識が高く、魔界では文明や文化、科学といったものはほとんど発展していない。
・基本的な文化様式は、具象界における中世以前の部族社会に似ている。
・各部族にはその頂点に君臨する『魔王』と呼ばれる強力な個体を中心に、部族を統括するための貴族階級に相当する者達が存在する。

魔神の言葉(言語)
・魔界の住人である魔神達は、具象界の人間と比べるとはるかに高い霊格を持つ。そのため、魔神は生まれながらにして半レバシー的な意思疎通が可能。
・見た目は動物の唸り声や鳥の囁きのような音を発していたとしても、言いたいことは通じる。そのため、明確な言語と呼ばれるものが無い。
・異界(特に具象界)の住人相手にも同じことがいえ、魔神は相手がどのような種族であれ、不自由なく会話することができる。
・人間が相手の場合、その人間の母国語が日本語であれ、英語であれ、意識せずに意思疎通が可能。人間から見ると、相手の魔神は自分の母国語と同じ言葉が発しているように聞こえる。
・動物や昆虫といった霊格はるかに低い生物に対しては、ニュアンスの伝達をすることで会話することができる。例えば犬と魔神が会話する場合、魔神は普通に話しかけ、犬はそれに吠えたり尻尾を振り回したりして返事する。第三者から見ると会話が出来ているように見えないが、お互いがニュアンスのやり取りをしているため、例えば"お腹がすいた"、"飼いは青い服を着ている"というような低レベルの情報交換が成立する。

魔界の階級
魔界では以下のような階級社会が存在する。

- 1) 魔王(Master of Daimon)
・部族を統括する最強クラスの個体が『魔王』と呼ばれる。
・実際に部族の頂点として君臨していなくても、このクラスの実力を持つ個体は存在する。
2) 貴族(Noble of Daimon)
・部族を統括する指揮官に相当する力をもった個体が『貴族』と称される。
・この階級には魔王に準じる実力を持つものが多い。
・この階級の魔神は、爵位(いわゆる公・侯・伯・子・男)を付けて名前を呼ばれる。一部では具象界から取り入れた士官(「将官」、「佐官」、「尉官」)を使っている部族もある。
3) 語り部(Teller of Daimon)
・知識や伝承を記憶、記録し、伝えることに専念している魔神を『語り部』と呼ぶ。
・魔界の中では有識者であり、魔王の直下で参謀として働くことが多い。
4) 門番(GateKeeper of Daimon)
・空間転移や異界転移の能力に長けた魔神は『門番』と呼ばれる。
・この階級の魔神は、個体としての戦闘能力はどちらかというと低いものが多い。
・空間や次元の壁を自由自在に飛び越える能力を持つことから、戦略的・戦術的に貴重な存在となっている。
5) 雑兵(Minor of Daimon)
・上記の階級に属さない個体は、総じてこの階級に含まれる。ただし、その能力の高さはピンキリなので、正確には"雑兵"とは呼ばれているわけではない。

魔神(デーモン)
魔神とは、「魔界の住人であり、覇王戦争(詳細は後述)のために自らの目的を持って行動する知的生命体」であるものとする。

種族
魔界の住人である魔神は、大きく分けて3つの種族に分類される。これはその起源となる3つの魔素と対応している。

- 1) 霊素[Spiritual] / 種族名=ラウティ・リップス[Lauti-Rips]
・霊素とは、生命力と精神力の根源である魔素のこと。
・霊素の加護を受けた魔神の種族は『ラウティ・リップス』と呼ばれている。
・この種族には生命力の扱いに長けた『ラウティ』、精神力の扱いに長けた『リップス』という部族があり、この種族名は部族名を繋ぎ合わせたものといえる。
・この種族のほとんどが人間に非常に近い姿をしている。天使のような姿をしている個体が多数いる。性別は♂、♀、雌雄同体、無性のいずれも存在するが、その比率はほぼ2:4:1:3。
・『リップス』は人間の基準からすると美形、もしくは妖艶な姿をしている個体が多数いる。性別は♂、♀、雌雄同体、無性のいずれも存在するが、その比率はほぼ1:7:1:1。
2) 元素[Elemental] / 種族名=ラトン・メーレ[Latne-Mele]
・元素とは、火水土風をはじめとするエネルギーと物質の根源である魔素のこと。
・元素の加護を受けた魔神の種族は『ラトン・メーレ』と呼ばれている。
・この種族は8種類のエネルギーと物質に相当する部族に分類され、それぞれが対応するエネルギーと物質を操ることに長けている。
・その外見は人型であるものが多いが、エネルギーや物質の塊をしていたり、合成獣のような姿をしている個体も多数いる。
・具象界で知られる悪魔(ソロモンノ72柱の悪魔など)は、ほとんどこの種族に属しているものではない。
・この種族の性別は♂、♀、無性の3種類でほぼ占められており、その比率はほぼ3:3:4。
3) 念素[Material] / 種族名=ライ・レータム[Lai-Retam]
・念素とは、時間と空間の根源である魔素のこと。
・念素の加護を受けた魔神の種族は『ライ・レータム』と呼ばれている。
・この種族には、時間や空間を操ることに長けたものが多い。
・他の種族よりも個体数は極端とて少ないが、個々のポテンシャルは非常に高い。

- ・最近では異界(特に具象界)との接触により、金属と機械を操るものが現れた。
・その外見は、人間とはかけ離れたものがほとんど。時計(砂時計や振り子時計)、魔方陣、彫像のような姿をしているものが多く見受けられる。
・この種族の中では少数派のようだが、ロボットのような姿(そのほとんどが金属と機械を操ることに長けている)をしているものもいる。
・この種族の性別は、ほとんどが無性。極稀に無性以外の性別を持つものもいる。

魔神の性別
・魔神には♂、♀、雌雄同体、無性の4つの性別が存在する。
・魔神同士の交流において、その性別が意味を持つことはあるが、魔神の数が増えることについては、この性別は直接関係ない。
・魔神は、必要なら自分の一部を切り離して、自分の子孫や分身にあたる個体(子供)を、単独で作出すことができる。そのため、性別に関係なく一人で子供を作ることができる。
・子供は複数で作することもできる。必要なのは作る際に分け与える力を誰が提供するかであって、その性別は関係ない。
・作られた子供の性別は、作ったものが決めることができる。

魔神と部族
ここでは魔神とその部族、代表的な魔王について説明する。

霊素ノラウティ・リップス
・この種族は、魔界の人口の約3割を占めているといわれている。
・他の種族に比べて、部族に君臨する魔王の統率力は高く、部族間の交流も盛んに行われている。
・お互いのプライドがあるものの、覇王戦争の中では、この2つの部族は共闘体制をとっている。

- 1) 生命力の扱いに長けた部族『ラウティ』
・人間に非常に近い姿をしているが、耳がはがっていたり、翼を持っていたり、尻尾があったりとどこか人間ではない部位がある。
・治癒と回復の技に優れており、いとも簡単に死者の蘇生を行う個体も多数いる。
・人間の基準で言うと見目麗しい外見のものが多いため、具象界では神や天使として扱われることが多い。

- 治癒天使"ラビエル":♂
・3対6枚の白い翼を持つ男性の姿をした魔神。
・魔王なら強力な治癒能力の使い手であり、蘇生能力も当然のように持つ。
・温和外見に似合わず激しい内面を持ち、敵対者には容赦しない。

- 2) 精神力の扱いに長けた部族『リップス』
・人間に非常に近い姿をしているが、その容姿は(人間の基準からすると)妖艶で、角があったり、先端が尖った尻尾を持っていたり、蝙蝠のような翼を持っていたり。
・心と魂を操るため、具象界では"人間にそっくりな姿をした悪魔"として扱われることが多い。

- 放蕩妖魔"リリア":♀
・外見はグラマラスで妖艶な女性で、蝙蝠の翼と先端が槍のようになった黒い尻尾を持つ。
・いわゆるサックユバスに分類される魔神で、具象界では"リリス"や"リリム"とも呼ばれる。
・感情を操ることに長け、相手から生命力を奪う戦法を得意とする。
・意外にも他人の傷を癒す能力も持ち、その女王様の性格とカリスマ性で、部族内では魔王として絶大な人気を誇っている。
・一説によるとこの部族の半数以上は彼女の配下だと言われている。

元素ノラトン・メーレ
・この種族は、魔界の人口の約6割を占めているといわれている。
・エネルギー/物質に分類された8つの部族がいるが、種族内はおろか、部族内でも統制がとれていないものがほとんど。これは、部族毎の性質が、他の部族と反発する(例えば火と水)ものがあるためだといわれている。

- 1) 火の部族『フレイマー』
・火山を中心に息をする火と高温を操る部族。
・人型の個体も多いが、鳥型(フェニックス)、トカゲ型(サラマンダー)といった個体も数多い。

- 火炎魔神"ヴォルカーノ":♂
・火の部族の中で最強の個体と噂される魔王。
・人型をしているが、瞳は白熱化しており、髪の毛は炎でできている。
・本気を出すと、地面が溶岩と化すほどの火炎を放出し、周囲を焼き尽くす。

- 2) 水の部族『ストリーマー』
・魔界には巨大な湖がいくつもあり、海と呼べるほどの場所もある。この部族はそれらの水域を中心に住んでいる。
・部族の特徴としては、体のどこかに必ず水棲生物(その多くは魚)を表す特徴的な部位が存在する。

- 飛翔水魔"マーメイア":♀
・上半身は人間の女性(髪の毛は海藻のようにになっている)、下半身はイルカの後ろ身で、腰のあたりに飛魚のような羽を持っている。
・魔界の一角にある巨大な湖『水晶湖』(クリスタル・レイク)に君臨する魔王。
・水中では驚異的な移動速度を誇り、地上では浮遊して移動する。

- 3) 岩の部族『ジョー』
・この部族のほとんどの個体が、鱷、象、河馬、熊といった大型で力の強い動物の姿をしおり、いずれもが岩、もしくは石でできたような体表をしている。
・小型の個体としては、蛇や狐のような姿をしているものがあり、こちらは体表や毛皮が砂でできているよう感触がある。

- 岩石"ロックジョー":♂
・全長5mほどの岩でできた鱷。
・部族中もっとも巨大な個体で、その力の強さより魔王として君臨している。
・非常に喧嘩早く、好戦的で知られている。
・体高は1mほどしかないが、背の高い他のものは全て自分を見下している"という被害妄想を抱えており、自分より背の高い者と視線が合うたびに"何を見下してんだア!!!と攻撃を加える。

- 4) 風の部族『ストーマー』
・この部族に属するものたちは必ず翼か羽を持ち、例外なく飛行能力を備える。
・鳥や昆虫の姿をした個体も多いが、グリフォン、ヒボグリフ、マンティコアといった翼を持つ合成獣、ワイバーンやフェアリードラゴン(蝶の羽根を持つ超小型ドラゴン)などもある。
・人型の個体も多数おり、鳥の翼を持つもの、昆虫の羽根を持つものがある。特に昆虫の羽根を持つ人型の個体は、サイズが小さく(身長が15~40cm程度)、妖精と間違われることもある。
・高山の上部に住み、空を主な活動範囲としているため、あまり他の部族と衝突しない。

- 嵐鳥"ストームバード":♂
・外見は大型犬ほどの大きさの白い猛禽類。
・普段は音もなく一切空気をかき乱さないで静かに飛行しているが、本気を出すと羽がはたきだけて竜巻が発生し、その移動は台風のように嵐を伴う。
・本人はその自覚が無いが、風の部族の誰かが魔王であると認められている。

- 5) 光の部族『ルミネティ』
・この部族の個体は、ほぼ人型に翼を持つ天使の姿をしている。
・部族そのものは天使のヒエラルキーに従って厳格に階級分けされており、非常に統制が取れている。そのため、一部の例外を除いて必ず集団で行動する。

- 光天使"ルミエル":無性
・人型で一對の翼を持つという部族共通の外見だが、全身がほぼ光の塊で、体の各部位は削られた水晶体を繋ぎ合わせたロボットのような姿をしている。
・頭は六角水晶のようで、目も鼻も口も耳も無い。
・普通に会話できるが、その体の構造のせいか、声はエコーがかかっている。
・部族を完全に統括し、不敗と呼ばれるほど高いレベルの戦術指揮を行う魔王。

- 得するための争いも、よく発生する。
- 同様に、異界の住人（特に具象界の人間）に惚れ込んでしまっただけで定住してしまうものや、溺愛するあまり魔界へ連れてきてしまうものもある。

○搜索対象となっている魔神達

- ・霸王戦争の中では、しばしば特殊な能力を持つ個体が争奪戦の対象となる。
 - ・純粋な戦略ユニットとして求められるのがほとんどだが、魔王や貴族の魔神が、特別な感情をもってその個体を欲しているという裏事情を持つこともよくある。
 - ・以下にその争奪戦の対象となっている個体を列挙する。
- 1) 鬼子母神”ハリティエ”／♀／影の部族
 - ・具象界では”ハリティエ”とも呼ばれる鬼女の魔神。
 - ・あらゆるものを惹きつけずにはおられない圧倒的な母性と存在感を持ち、一時、様々な魔王から求愛を受け、その結果、何人もの魔王との間に数千（一説には数万とも）の子供を作った。
 - ・途中で、子供達が霸王戦争で命を散らしていくことを嘆き、自ら亜空間を作り出して全ての子供達とともに引きこもった。
 - ・彼女とその子供達はその亜空間の中で眠りにについている
 - ・通常の魔界の空間からは切り離されたところにいるため、その正確な位置は誰も知らない。
 - ・ひとたび彼女を目覚めさせ、その子供達を配下につければ、魔界の軍事バランスを崩壊させるだけの戦力が手に入ることになる。
 - ・魔界では単なる伝説となりつつあるが、彼女を知る一部の魔王は、今も搜索を続けている。
 - 2) 真珠姫”パールマティー”／♀／ラウティ
 - ・具象界では”パールヴァティエ”とも呼ばれる魔神。
 - ・真珠のような光沢のあるプラチナの髪を持つ少女の姿をしている。
 - ・額には第三の目を持ち、普段は前髪で注意深く隠している。
 - ・彼女は現在、行方不明である。霸王戦争の戦乱を嫌い、具象界に身を潜めているという噂がある。
 - ・魔神としては貧弱な存在だが、彼女の第三の目は他に類を見ない強力な能力を秘めている（下記を参照）。
 - パールマティーの特殊能力「完全復元」
 - ・記憶している目標を完全に復元する。
 - ・目標は死亡しても瞬時に蘇生できる。
 - ・仮に目標が完全消滅しても、1分たらずで0から復元できる。しかも、復元途中で可能な範囲でなら行動できる。
 - ・蘇生／復元された目標は、死亡／消滅する寸前の全ての能力と記憶を全て持って復活する。
 - ・目標はパールマティーとどれだけ離れていたとしても復活できる。
 - ・この能力は、憶えている誰か一人にしか適用できない（複数の目標を覚えておくことはできない）。
 - ・目標を憶えるには1分間、目標に触れて集中している必要がある。
 - ・目標のことはいつでも一瞬で忘れることができるが、その際に目標に関する記憶も全て忘れてしまう。これによって忘れられると、二度とこの特殊能力の目標になることはできない。
 - ・彼女は額の第三の目でこの効果の目標を憶える。
 - ・憶えた後、第三の目が再び開かれられない限り、彼女は憶えた目標を忘れることはできない。
 - ・不老不死の魔神が最も恐れる”消滅死”からも復活できるこの能力を、全ての魔王が欲しているとい過言ではない。
 - 3) 観察鏡”ミール”／無性／ライ・レータム
 - ・古めかしい額縁を持った楕円形の鏡の姿をした魔神。
 - ・鏡に映った相手の全ての過去を見通す力を持ち、今まで写した全ての相手のことを記憶している。そのため、この魔神は語り部であるといわれている。
 - ・あらゆる魔王の弱点を知っていると噂されており、争奪戦の対象となっている。
 - ・器物としての外見の上、自らほとんど動こうとしないため、ただの鏡としてどこかに放置されている状態。
 - ・噂ばかりが先行して正確な姿（額縁の形など）が伝わっていないため、なかなか発見されないようである。